



社会福祉法人花輪ふくし会 第五次基本計画書 (自 令和4年度 ~ 令和6年度)

～誰もが幸せに暮らし続けられる社会の実現のために～

基本計画のあゆみ

第一次基本計画（平成22年度～24年度）
サービスの質の向上と在宅サービス支援体制の整備



第二次基本計画（平成25年度～27年度）
社会参加と自立支援・地域作りへの貢献



第三次基本計画（平成28年度～30年度）
地域丸ごと支援体制の構築



第四次基本計画（平成31年度～令和3年度）
地域共生社会の実現に向けて



第四次基本計画 総括

(平成31年度～令和3年度)

1. 福祉サービス事業基本計画

高齢者福祉、障害福祉サービス相談支援担当者合同による相談支援会議を開催し、高齢系と障害系との連携強化を図りました。また、よろず相談窓口を開設・実施し、年齢や障害等の種別を問わず、地域で暮らす誰もが安心して暮らしていくために相談できる体制の構築が図られました。

高齢者福祉サービス事業、障害福祉サービス事業について、鹿角市内（八幡平エリア、花輪、尾去沢エリア、十和田エリア）、小坂町内（小坂エリア）、大館市内（大館エリア）の体制づくりが進みました。大館エリアでは、平成29年開設の多機能型事業所並びにグループホームに続き、障害児・者多機能型事業所ならびにグループホームが整備となりました。

法人としては初の日中サービス支援型のグループホームとなり、相談支援事業所も併設し、障害児・者の成長に合わせた切れ目のない支援体制の整備が図られ、包括的相談・支援体制システムとの連動を図り、エリア間の相談支援体制の連携強化を図りました。

高齢者福祉サービス事業、障害福祉サービス施設入所短期入所事業所において、共生型短期入所事業指定を受け、既存事業所機能の充実が進みました。高齢者福祉サービス事業では、認知症カフェや「くもん学習療法」の実施、「脳の健康教室」の実施、介護予防教室への職員派遣を行う等、地域での役割を果たしました。

障害福祉サービス事業では、地域生活支援拠点の整備において鹿角市では面的整備事業の実施、大館市においては多機能型の地域生活支援拠点の整備を実施しました。

第四次基本計画 総括

(平成31年度～令和3年度)

2 . 魅力ある職場づくり基本計画

コロナ禍での就職フェア等への通常開催や参加が難しい中、法人PR活動を促進しフェイスブックやホームページ、法人広報誌発行等、人財確保のための情報発信の強化を図りました。また、外国人技能実習生の受け入れを行い、多様で柔軟な勤務体制の整備と合わせて、人財の充足・維持を図りました。

また、介護ロボットやICT機器の検討や導入、更には、最新機器の情報共有や試験的な体験利用を実施し、業務改善に努めました。

介護職員初任者研修や介護実務者研修の実施、資格取得に向けたバックアップ研修実施等、職員各階層に応じて充実した法人研修の実施が図られました。

また、法人指針や法人ケアマニュアルの見直しにより、人権の尊重とサービスの質の向上に向けた取り組みが実施されました。

令和3年度から1on1ミーティングの実施により、部下や後輩の現状や悩みに寄り添いながら、能力を引き出す育成のための時間としての取り組みが開始となり、事業所内における良好なコミュニケーションの醸成や信頼関係構築が図られました。

第四次基本計画 総括

(平成31年度～令和3年度)

3 . 経営基本計画

令和3年度からの10年間を期間とする法人中長期計画の策定により、『この地域にあってよかった花輪ふくし会』を明確なビジョンとして決めました。地域福祉の担い手として、利用者様・ご家族様にも、法人で働く職員にも、そしてこの地域のすべての皆様にとって、花輪ふくし会がそこにあるとよかったと思える社会福祉法人を目指し、法人の方針を明示、徹底する取り組みを行いました。

経営層では、新規事業所や福祉機器の情報取得を目的とした役員研修や全社協主催施設長講座への参加等を継続しました。

また、経営層や管理職員によるコンプライアンス周知徹底のため、法令順守責任者によるコンプライアンスの研修を実施しました。更には鹿角市健康福祉部との情報交換会の開催により、地元行政機関との連携強化を図りました。

会計監査による質の高い監査の実施、法人内会計監査・監事監査及び内部監査の連携により適正な内部統制の強化、確立に向けた取り組みを行いました。

事業継続計画（BCP）の策定においては、定期的な備蓄品の整備を進め、各事業所でのBCPの策定を進めました。令和3年度、八幡平地区や毛馬内地区において、高齢福祉サービス事業所と障害福祉サービス事業所が連携して、防災避難訓練を実施する等、甚大かつ広域化する自然災害に対して、法人事業所が協力して人命を第一として安全に避難誘導できる体制に向けた取り組みを開始しました。

第四次基本計画 総括

(平成31年度～令和3年度)

4 . 新規事業基本計画

令和2年4月、多機能型事業所「ぱすてる」を開設し、大館市清水地区の地域生活支援拠点おおだてと共に、大館地域における障害児・者支援体制の拡充が図られました。

あすなる・更望園の森向への新築移転計画については、法人施設（東恵園）の老朽化対応等、法人事業所全体を見直しながら、再検討・計画することとなりました。

第四次基本計画 総括

(平成31年度～令和3年度)

5 . 公益的取り組み基本計画

有償サポーター制度を活用した地域の高齢世代が活躍できる機会の提供、認定就労訓練事業において、生活困窮者や引きこもりの方が社会参加する機会の創出にも寄与しました。

また、各施設で活躍いただいたボランティアに対して、ボランティアポイント事業を適用し、法人産品や法人内飲食店におけるポイント還元を実施しました。

法人広報の発行に加え、フェイスブック等を活用した事業活動内容の発信を積極的に行いました。地域住民を対象とした介護予防セミナー、フレイル予防、ペップトーク等多岐にわたるテーマを題材に介護予防につながるセミナーを開催し、法人が中心となり、地域での介護予防の積極的な推進を図りました。

市との災害時協力体制の確認や福祉避難所としての指定、法人事業継続計画（BCP）の策定を行い、災害時備蓄品の整備充実と併せて、体制整備を推進しました。

また、新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策においては、最新の情報や必要備品の整備を進めておりますが、自然災害以外の感染症への備えについては、更に有効な対策や計画が課題となりました。

第四次基本計画 総括

(平成31年度～令和3年度)

6 . イノベーション (新たな発想) 基本計画

介護ロボットや各種ICT機器の活用により、職員の身体的な負担軽減や業務の効率化を図りました。最新機器や情報については法人全事業所での情報共有を図り、

また、効果効率的な運用については、職員の負担軽減や業務の効率化により、課題である職員の高齢化や新たな働き手の確保に結びつけるため、次計画でも大きな柱としています。

Ⅱ. 経営理念

笑顔とありがとうの心で
地域福祉を創造します

Ⅲ. 経営方針

1 良質のサービス提供

2 情報開示、透明性の確保

3 人権擁護と利用者主体

4 地域からの信頼

IV. 中長期基本計画ビジョン

この地域に、

あって良かった花輪ふくし会

V. 第五次基本計画

花輪ふくし会第五次基本計画は、働き手の減少や新たな感染症の出現、超高齢社会等の社会情勢を見据えた上で、第四次基本計画の検証と分析により、多様化する福祉ニーズに対応するため、令和4年度からの3ヶ年計画として実施します。

また、この第五次基本計画の実施については、当法人中長期基本計画ビジョンを達成するための道筋となるとともに、SDGsという世界共通の新たな理念である「誰一人取り残さない」を取り入れ、以下の5つの柱を中核に地域における社会福祉法人としての役割を果たします。

更に、秋田県の介護保険事業支援計画・老人福祉計画及び障害者計画、鹿角市の高齢者福祉・介護保険事業計画及び障害者福祉計画・障害児福祉計画、小坂町及び大館市の障害福祉計画との整合性を図りながら、計画を推進するものです。

利用者サービスの向上

健全な
経営計画

魅力ある
法人づくり

社会貢献・
地域貢献

自然災害や
感染症に
強い
法人づくり

1. 利用者サービスの向上

- 目標 3. すべての人に健康と福祉を
 目標 1 1. 住み続けられるまちづくりを
 目標 1 7. パートナーシップで目標を達成しよう



誰もが幸せに暮らし続けられる社会の具現化のために、その人がその人らしく、安心・安全に生きがいを持ち暮らせるよう、各エリアにおける支援体制を更に強化し、良質なサービスを提供します。

また、関係機関との連携を図り、花輪ふくし会としての役割を常に検討・実施し、これまでの高齢者福祉・障害福祉サービス等の事業経験を生かし、地域に根ざした包括的な支援体制の構築に取り組みます。

(1) 質の高いサービスの提供

- ① 切れ目のない支援・介護体制の構築
- ② 支援・介護環境の充実

(2) 安心・安全のための専門性の向上

- ① 支援・介護技術の向上
- ② リスクマネジメントの推進
- ③ ICTの活用検討・実施

(3) 高齢者福祉サービス事業の充実

- ① 東恵園の新築移転計画
- ② 科学的介護の実践・強化
- ③ 認知症予防や介護予防の強化

(4) 障害福祉サービス事業の充実

- ① 重度高齢障害者の支援環境の整備
- ② 医療機関等との連携

2. 健全な経営基盤の確立

- 目標 4. 質の高い教育をみんなに
- 目標 5. ジェンダー平等を実現しよう
- 目標 8. 働きがいも経済成長も



事業経営の透明性の確保と、この地域に必要なサービスを継続的に提供することにより、特定社会福祉法人としての社会的信用と信頼を持続できる安定的な法人を目指します。

また、組織におけるコンプライアンス遵守・リスク管理・業務の効率化等を職員全体に浸透させ、内部管理体制の強化と健全な経営基盤の確立を図ります。

(1) 経営執行体制の強化

- ① 方針の明示と徹底
- ② 自己啓発等による執行体制の強化
- ③ 行政・関係機関との連携

(2) 内部統制の確立

- ① 理事会・評議員会の機能確立
- ② 施設長会の機能確立
- ③ 業務機能体制の充実
- ④ 情報システムの管理強化
- ⑤ コンプライアンスの遵守
- ⑥ 監査部門の強化と連携

(3) 財政基盤の確立と透明性の確保

- ① 健全経営の取り組み
- ② 財務基盤の確立
- ③ 補助金の有効活用
- ④ 計数等目標

3. 魅力ある法人づくり

- 目標 4. 質の高い教育をみんなに
- 目標 5. ジェンダー平等を実現しよう
- 目標 8. 働きがいも経済成長も



慢性的な人財不足に対応するため、職員の育成や処遇・職場環境の改善、資格取得に向けたサポート等、職員が自信とやりがいを持つことのできる「魅力ある法人」をつくり、人財確保と長期定着を目指します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

(1) 人財マネジメントの強化

- ① 人財確保に向けた取り組みの強化
- ② 人財定着に向けた取り組みの強化
- ③ 人財育成に向けた取り組みの強化

(3) 働きがいのある法人づくり

- ① 取組の充実と認知度拡大
- ② 目標管理制度の活用
- ③ 人事労務管理体制の充実

(2) 働きやすい職場づくりの実現

- ① 業務改善の推進
- ② ワークライフバランスの推進
- ③ ハラスメント防止への取り組み

4. 社会貢献・地域貢献

- 目標 1. 貧困をなくそう
- 目標 2. 飢餓をゼロに
- 目標 3. すべての人に健康と福祉を
- 目標 11. 住み続けられるまちづくりを
- 目標 17. パートナーシップで目標を達成しよう



地域福祉の中心的な担い手として、地域に暮らす人々を支えるため、多様で複雑化している地域のニーズに応える取り組みを実践します。

社会福祉法人としての本来の使命・役割を踏まえ、地域の福祉ニーズ等に対し、法人の自主性、創意工夫による多様な地域貢献活動を率先して行います。

(1) 地域における公益的な取り組みの継続

- ① 地域公益活動の積極的な実施

(3) 多様な福祉ニーズへの支援

- ① 地域ニーズへの対応

(2) 情報発信と各種啓蒙活動

- ① 情報発信力の強化
- ② 介護、認知症、障害等、各分野に関する予防と啓蒙活動

5. 自然災害や感染症に強い法人づくり

目標 7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
 目標 12. つくる責任、つかう責任
 目標 13. 気候変動に具体的な対策を



利用者様の安全確保を第一とし、災害を受けにくい環境づくりと災害発生時の迅速かつ適切な対応の強化を図ります。そのうえで地域における防災対策にも取り組み、地域から信頼される法人を目指します。

また、新型コロナウイルスをはじめとした各種感染症予防・拡大防止対策にも取り組み、「持ち込まない・持ち出さない・拡げない」の更なる強化を図ります。

(1) 災害を受けにくい環境づくり

- ① 自然災害への対応
- ② 感染症への対応

(3) 地域から信頼される防災対策

- ① 防災拠点としての機能強化
- ② 適切な情報発信

(2) 災害発生時の迅速かつ適切な対応

- ① 自然災害への対応
- ② 感染症への対応



社会福祉法人

花輪ふくし会